

第9回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム
一般向けプログラム パネルディスカッション(案)

環境安全課

1.ねらい

化学物質に関する環境省の取組とその成果について情報提供を行い、「化学物質のリスク評価」をどう進めているかに焦点をあて現状を伝え、情報共有を図る。

市民とともに今後の課題を見つけ、市民一人一人が化学物質の問題をどう捉え、どう対応していくかについて考える場とする。

タイトルは「化学物質の環境リスクにどう向きあっていくか？」等。

2.形式

市民とのコミュニケーション促進という実施目的を明確にするために、ステージ上に情報の受け手である一般市民を代表して疑問を投げかけるパネリストを配置し、専門家や担当者がこの質問側パネリストからの疑問に対して答えるという形式で進める。

3.内容

環境リスク＝作用の強さ×ばく露量であるといったリスク評価についての説明や、作用を検証するための試験法の実際・問題点についての解説、ばく露量把握のための環境実態調査についての紹介を行い、その上で一般市民の代表としての質問側パネリストからの疑問をもとに議論を展開する。

4.パネリスト構成

専門家・担当者側パネリスト

- ・リスク評価の専門家
 - ・毒性試験の専門家
 - ・メーカーのリスク評価/管理担当者
 - ・行政担当官
- 一般市民を代表するパネリスト数名
コーディネーター1名

5.時間

1時間40分程度

リ-4-2 参考1

国際シンポジウム開催状況

	開催地	一般向けプログラム			専門家向けプログラム							
		特別講演	取組の現状	パネルディスカッション	基礎科学 作用メカニ ズム	試験法	生態系	人健康及 び疫学	暴露・ リスク評価	リスク コミュニ ケーション	取組の 現状	その他
第1回	京都市	ロブ・グイッサー 森田昌敏		パネルディスカッション	作用メカニ ズム 内分泌 攪乱化学 物質とは	スクリー ニング法	野生生物 への影 響	人への影 響	毒性・ リスク評 価		各界の 取組	
第2回	神戸市			パネルディスカッション	作用メカニ ズム Dose- response 基礎生物学 と環境毒性 学	スクリー ニング試験 魚類の 試験法	野生生物 への影 響	健康影響			日本での 調査研究	
第3回	横浜市	シーア・ コルボーン	政治と海 外での 取組み	「内分泌攪乱 化学物質ど こまでわ かったか」	作用メカニ ズム 低用量 問題	試験法	野生生物 への影 響	健康影響	リスク管理			
第4回	つくば市	ポー ヤンセン	我が国 の研究 的取組 み	「環境ホルモ ン21世紀・開 かれたア プローチを 目指して」	脳神経系 機能発達 への影響 と作用メ カニズム トキシコ ゲノミクス 構造活性 相関	スクリー ニング試 験法	野生生物 への影 響	健康影響			海外の 取組の 現状	
第5回	広島市	堤治	国際機関 (OECD, WHO等)や 欧米の取 組み	「環境リスク コミュニケーション」	免疫影響 甲状腺へ の影響 性分化		カエル	子供の健康	暴露評価 リスク評 価			
第6回	仙台市	グレン・ ファンデル クラーク	我が国 の研究 的取組 み	「内分泌攪乱 化学物質問 題におけ る政治的 役割」	基礎科学		野生生物	人健康影 響 評価基準	暴露		海外の 取組	
第7回	名古屋市	養老孟司	SPEED9 8取組の 成果	環境ホルモ ン問題を どう伝え ていきま すか	基礎科学		野生生物	人健康影 響	暴露	リスク コミュニ ケーション		今後の 研究の 方向性
第8回	沖縄市 宜野湾市	-	展示 ExTend 2005	天然のホル モンはど うなっ ているの か	作用メ カニズム	試験法 開発	野生生物	疫学	リスク評 価	リスク コミュニ ケーション		

(案)

第9回	釧路市	-	展示 ExTend 2005 (予定)	化学物質の 環境リス クにどう 向き合 うか	基礎的 研究	OECDで の取組 み	野生生物	小児保健		リスク コミュニ ケーション		
-----	-----	---	------------------------------	------------------------------------	-----------	-------------------	------	------	--	----------------------	--	--